

令和4年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		評価資料	到達率 [肯定評価(A、B)の割合]	アンケート結果(人数)				
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員16 生徒120 保護者108 地域住民51				A	B	C	D	?
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>								
確かな 学力の 定着と 向上	基礎・基本の定着	中間期	B	◇教職員の結果では肯定が8割を超えているが、生徒・保護者の結果はわずかに届いていない。授業内での発表や小テストは頑張られているが、家庭学習面に課題があるのではないかと考えられる。また、極端に教職員の評価が高くなっていることから、教師が教えたつもり、わからせたつもり、になっているとも考えられる。 ◆授業の終末でのまとめや発問などを工夫する。授業後の振り返りの徹底や相互授業参観による授業力向上を図る。	教職員	1	100%	13	3	0	0	
			B	◇保護者、生徒が目標値に達していなかったためB評価である。中間期と同様に教職員は基礎・基本の定着を目指した授業展開に努めている。また、全教科ではないが、小テストや授業後の振り返りも行うことができている。しかし、教師と保護者・生徒との数値に開きがあり、基礎・基本の定着にはいたっていないという意識がみられる。 ◆生徒の側に立った分かる授業や振り返りを重視する。また、小テストを定期的実施したり再テスト等を行ったりと、基礎・基本を更に定着できるよう手立てを図る。	教職員	1	100%	9	7	0	0	
			B	◇教職員は思考力・表現力を育成する授業展開に努めているが、教師と生徒との数値の差から考えると、その成果が生徒に浸透しているとは言えない。 ◆授業や「コラムを読む」での指導を継続して行うと共に、自分の考えを自分の言葉でしっかりと語ることができるように働き掛ける。また、授業だけではなく、集会などいろいろな場面で主体的に思考・表現する機会を増やし、日常的に表現力の向上を図る。	保護者	1	80%	12	31	9	2	
		年度末	B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	生徒	3	76%	41	47	26	2	
			B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	教職員	2	100%	7	9	0	0	
			B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	生徒	4	74%	32	54	28	2	
	主体的な学びの充実	中間期	B	◇教職員は思考力・表現力を育成する授業展開に努めているが、教師と生徒との数値の差から考えると、その成果が生徒に浸透しているとは言えない。 ◆授業や「コラムを読む」での指導を継続して行うと共に、自分の考えを自分の言葉でしっかりと語ることができるように働き掛ける。また、授業だけではなく、集会などいろいろな場面で主体的に思考・表現する機会を増やし、日常的に表現力の向上を図る。	教職員	2	100%	8	8	0	0	
			B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	生徒	4	73%	25	62	32	1	
			B	◇教職員は思考力・表現力を育成する授業展開に努めているが、教師と生徒との数値の差から考えると、その成果が生徒に浸透しているとは言えない。 ◆授業や「コラムを読む」での指導を継続して行うと共に、自分の考えを自分の言葉でしっかりと語ることができるように働き掛ける。また、授業だけではなく、集会などいろいろな場面で主体的に思考・表現する機会を増やし、日常的に表現力の向上を図る。	教職員	2	100%	11	21	0	0	
		年度末	B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	保護者	2	74%	1	39	14	0	
			B	◇生徒が目標値に達していなかったためB評価である。教職員は中間期と比べてやや上昇傾向が見られるが、生徒についてはやや下降傾向が見られる。授業展開や課題に込めた教員側の意図やねらいが、生徒に的確に伝わっていないことが理由と思われる。 ◆教師側の意図やねらいを明示して確実に伝える。また、授業内で生徒自らが課題に取り組む時間を確保したり、授業や集会などで発表する場面を増やししたりするなど、様々な機会をとらえて主体的に考えようとする態度を育て、表現力の向上を図る。	生徒	1,2	96%	116	107	9	0	
			B	◇生徒が目標値に達しているためA評価である。特に保護者のA評価が1人から11人と向上するなど、17%上昇した。オープンスクールでの各教員の取組が良い成果として表われてきている。また「えひめICT学習支援システム」EILS(エイリス)を活用して行ったテスト結果をICT上で返却できるなど、授業スタイルも変化してきた結果と思われる。 ◆今年度は道徳を中心として話し合い活動を進めてきたが、ICTと話し合い活動の連携をさらに推進していく必要がある。愛媛県が独自に開発したEILSをすべての教員が使いこなすことも必要である。	教職員	3,5	100%	17	15	0	0	
指導方法の工夫・改善	中間期	B	◇日々の授業において、教職員や生徒は、ICT機器や思考ツール、班活動を取り入れた対話的な学習を通して、少しずつ手応えを感じていると思われる。しかし、点数や順位などには表れない学習結果や成長もあるため、保護者は不十分であると感じているのではないと思われる。 ◆教師・生徒は現在の取組を継続し、授業の様子をHPや参観日等で外部に発信し続ける。また、数値には表れなくとも、生徒自身に成長した部分を具体的に伝えることで、生徒を通して保護者にも成長が伝わるようにする。	保護者	2	74%	1	39	14	0		
		B	◇日々の授業において、教職員や生徒は、ICT機器や思考ツール、班活動を取り入れた対話的な学習を通して、少しずつ手応えを感じていると思われる。しかし、点数や順位などには表れない学習結果や成長もあるため、保護者は不十分であると感じているのではないと思われる。 ◆教師・生徒は現在の取組を継続し、授業の様子をHPや参観日等で外部に発信し続ける。また、数値には表れなくとも、生徒自身に成長した部分を具体的に伝えることで、生徒を通して保護者にも成長が伝わるようにする。	生徒	1,2	96%	116	107	9	0		
		B	◇日々の授業において、教職員や生徒は、ICT機器や思考ツール、班活動を取り入れた対話的な学習を通して、少しずつ手応えを感じていると思われる。しかし、点数や順位などには表れない学習結果や成長もあるため、保護者は不十分であると感じているのではないと思われる。 ◆教師・生徒は現在の取組を継続し、授業の様子をHPや参観日等で外部に発信し続ける。また、数値には表れなくとも、生徒自身に成長した部分を具体的に伝えることで、生徒を通して保護者にも成長が伝わるようにする。	教職員	3,5	100%	11	21	0	0		
	年度末	A	◇いずれも目標値に達しているためA評価である。特に保護者のA評価が1人から11人と向上するなど、17%上昇した。オープンスクールでの各教員の取組が良い成果として表われてきている。また「えひめICT学習支援システム」EILS(エイリス)を活用して行ったテスト結果をICT上で返却できるなど、授業スタイルも変化してきた結果と思われる。 ◆今年度は道徳を中心として話し合い活動を進めてきたが、ICTと話し合い活動の連携をさらに推進していく必要がある。愛媛県が独自に開発したEILSをすべての教員が使いこなすことも必要である。	保護者	2	91%	11	87	10	0		
		A	◇いずれも目標値に達しているためA評価である。特に保護者のA評価が1人から11人と向上するなど、17%上昇した。オープンスクールでの各教員の取組が良い成果として表われてきている。また「えひめICT学習支援システム」EILS(エイリス)を活用して行ったテスト結果をICT上で返却できるなど、授業スタイルも変化してきた結果と思われる。 ◆今年度は道徳を中心として話し合い活動を進めてきたが、ICTと話し合い活動の連携をさらに推進していく必要がある。愛媛県が独自に開発したEILSをすべての教員が使いこなすことも必要である。	生徒	1,2	96%	98	133	9	0		
		A	◇いずれも目標値に達しているためA評価である。特に保護者のA評価が1人から11人と向上するなど、17%上昇した。オープンスクールでの各教員の取組が良い成果として表われてきている。また「えひめICT学習支援システム」EILS(エイリス)を活用して行ったテスト結果をICT上で返却できるなど、授業スタイルも変化してきた結果と思われる。 ◆今年度は道徳を中心として話し合い活動を進めてきたが、ICTと話し合い活動の連携をさらに推進していく必要がある。愛媛県が独自に開発したEILSをすべての教員が使いこなすことも必要である。	教職員	3,5	100%	17	15	0	0		
家庭学習の習慣化	中間期	B	◇教職員は目標値を超えており、以前より家庭学習ができ始めたと感じているようである。毎日の自主学習ノートへの取組が充実してきた生徒が増えたり、各教科おける課題の忘れ物が減っているなど、よい傾向がみられる。 ◆生徒で60%、保護者で60%程度の達成率であり、家庭では学習の習慣が身に付いていないと考える割合が高い。家庭との協力体制を築くなど、連携を密にすることで、家庭学習の習慣化を目指したい。	教職員	4	88%	2	12	2	0		
		B	◇教職員は目標値を超えており、以前より家庭学習ができ始めたと感じているようである。毎日の自主学習ノートへの取組が充実してきた生徒が増えたり、各教科おける課題の忘れ物が減っているなど、よい傾向がみられる。 ◆生徒で60%、保護者で60%程度の達成率であり、家庭では学習の習慣が身に付いていないと考える割合が高い。家庭との協力体制を築くなど、連携を密にすることで、家庭学習の習慣化を目指したい。	保護者	3	56%	9	21	19	5		
		B	◇教職員は目標値を超えており、以前より家庭学習ができ始めたと感じているようである。毎日の自主学習ノートへの取組が充実してきた生徒が増えたり、各教科おける課題の忘れ物が減っているなど、よい傾向がみられる。 ◆生徒で60%、保護者で60%程度の達成率であり、家庭では学習の習慣が身に付いていないと考える割合が高い。家庭との協力体制を築くなど、連携を密にすることで、家庭学習の習慣化を目指したい。	生徒	5	61%	27	44	39	6		
	年度末	B	◇いずれも目標値が60%以上の肯定のためB評価である。中間期より、教職員、保護者ともに評価が下降しているのに反して、生徒の評価は上がっている。宿題や自主学習ノートへの取組が、生徒の家庭学習の習慣化につながったのではないかと考える。 ◆今年度も、自主学習ノートへの取組を続けている。継続したこの取組により、家庭学習に真面目に励む生徒が増えてきている。習慣化されつつある取組であるため、テスト前の学習だけでなく、普段から個に応じた学習内容を考慮しながら、今後もより効果的な手立てを考え、サポートすることが必要である。	教職員	4	75%	1	11	4	0		
		B	◇いずれも目標値が60%以上の肯定のためB評価である。中間期より、教職員、保護者ともに評価が下降しているのに反して、生徒の評価は上がっている。宿題や自主学習ノートへの取組が、生徒の家庭学習の習慣化につながったのではないかと考える。 ◆今年度も、自主学習ノートへの取組を続けている。継続したこの取組により、家庭学習に真面目に励む生徒が増えてきている。習慣化されつつある取組であるため、テスト前の学習だけでなく、普段から個に応じた学習内容を考慮しながら、今後もより効果的な手立てを考え、サポートすることが必要である。	保護者	3	52%	13	43	37	15		
		B	◇いずれも目標値が60%以上の肯定のためB評価である。中間期より、教職員、保護者ともに評価が下降しているのに反して、生徒の評価は上がっている。宿題や自主学習ノートへの取組が、生徒の家庭学習の習慣化につながったのではないかと考える。 ◆今年度も、自主学習ノートへの取組を続けている。継続したこの取組により、家庭学習に真面目に励む生徒が増えてきている。習慣化されつつある取組であるため、テスト前の学習だけでなく、普段から個に応じた学習内容を考慮しながら、今後もより効果的な手立てを考え、サポートすることが必要である。	生徒	5	66%	21	58	36	5		
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度とデータの表が変わっている。肯定的な人数が分からない。 ・評価ができていく項目を減らすという方向性はよい。 ・グランドデザインにあった学力については、年度末に達成できればよいと思う。 ・生徒、保護者ともに学習面に期待しているのではないかと。学力を上げる方策を具体的に考えていけばよいのではないかと。 			学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の様子を参考に、人数が分かるように改善する。 ・項目の対象者は、中間期と年度末との比較の関係上、来年度改善する。 ・ふり返りや小テストを通じて、さらに基本的な学習内容の定着を進める。 ・主体的な学習が推進できるよう、ICTの効果的な活用を研修し、実践を積み重ねる。家庭学習に課題のある生徒については、家庭との連絡を密にし、協力・連携しながら習慣化を図る。 							
学校運営協議会委員の所見(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導方法の工夫・改善」について、考察にある「オープンスクールの取組の成果」は、保護者の評価か、生徒の評価が分かりにくかった。 ・保護者の結果を見ると、学年末では中間期より大幅にA評価が増えていることから、学校の取組が理解されてきていると感じる。 ・重点目標のB評価が、1つでもA評価となるよう今後も取り組んでいただきたい。 			学校の対応(学年末)	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導方法の工夫・改善」については、「対話的な学び」の充実を目指し、ICTだけでなく思考ツールも活用した。その成果を生かしながら、課題に応じた思考ツールを活用するための研究を深めていく。 ・主体的な学びに向かうための土台を構築し、生徒が、学びたい、学んでよかったと思えるような授業を工夫することで、基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化の向上を図る。 							

令和4年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数 教職員16 生徒120 保護者108 地域住民51		評価資料					到達率 [肯定評価(A,B)の割合]									
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>																
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>												アンケート結果(人数)				
																A	B	C	D	?
生徒指導の徹底と健全育成	生徒の健全育成 生徒理解に努め、家庭や地域、関係機関と連携しながら、生徒の課題に積極的に対応している。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇各行事(修学旅行や集団宿泊研修)を通して、学級や学年で協力して活動し、目標を持ってよりよい集団づくりを進めることができた。SNSの利用について各家庭でルールを定めているが、使い方や時間などについてルーズな生徒がいる。不登校傾向にある生徒に対して、SWSやSCをはじめ、多くの方と連携して対応することができている。 ◆保護者、生徒におけるC・Dの回答に対して、日頃からの生徒の様子に目や気を配り、初動を適切に行い対処していく。また、道徳科を要したすべての教育活動で、生徒の発達段階に応じた適切な指導を行っていく必要がある。特にSNSの利用について、日々の指導を粘り強く継続するとともに、家庭との連携を図り、見守り体制をより一層強化していく。	教職員	6.7	97%	15	16	1	0									
			保護者	4.5	88%	30	65	11	2											
		地域住民	6	100%	14	26	0	0	3											
		生徒	6.7	97%	146	79	7	0												
	道徳教育の充実	中間期	A	◇「特色ある道徳教育推進事業」の発表に向けて、道徳科に対する教職員の意識が向上している。また、生徒自身も道徳の大切さを理解しており、授業中真剣に考え、積極的に意見を発表する姿が見られるようになってきた。その積み重ねにより、学校外でもルールを守ったり挨拶をしたりする生徒が増えてきた。 ◆Bの回答が多い状況なので、Aの回答増を目指し、道徳科の授業改善をさらに進め、生徒の道徳性を高めていく必要がある。	教職員	8.9	100%	12	20	0	0									
			地域住民	5	100%	12	30	0	0	1										
		生徒	8.9	94%	119	99	13	1												
		年度末	A	◇いずれも目標値を超えているためA評価である。「特色ある道徳教育推進事業」の推進校として、対話的な学びに焦点を当てて実践した。特に、生徒同士の対話の活性化や教師の授業力向上、道徳性を育む体験活動の充実を目指し取り組んだ。生徒は、深まりのある話し合いができるようになったり、自分を大切に思い、将来のことを考えて行動したりするようになった。 ◆今後もAの回答増を目指し、道徳科の授業改善をさらに進め、生徒の道徳性を高めていく必要がある。	教職員	8.9	100%	15	17	0	0									
	地域住民	5	100%	17	31	0	0	3												
	生徒	8.9	93%	119	105	15	1													
	人権・推進	中間期	A	◇教職員、保護者、生徒いずれも、90%以上の肯定率となっている。学校生活では、落ち着いた雰囲気様々活動に臨めていると考える。 ◆SNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめに十分に配慮し、人権意識の高い生徒の育成に今後も努めていく。	教職員	10	100%	7	9	0	0									
			保護者	6	94%	7	44	3	0											
生徒		10	98%	72	42	2	0													
年度末		A	◇中間期同様、いずれも目標値を超えているためA評価である。今学期は学校行事で他学年と関わる機会が多く、3年生を中心に集団の連携を深め、お互いに認め合う、落ち着いた雰囲気活動ができたことと考える。 ◆引き続き、学級や部活動を中心に、よりよい集団づくりを行う。また、SNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめに十分に配慮し、人権意識の高い生徒の育成に今後も努めていく。	教職員	10	100%	10	6	0	0										
保護者	6	93%	19	81	7	1														
生徒	10	99%	69	50	1	0														
特別支援教育の推進	中間期	A	◇教職員、保護者、生徒90%以上の肯定率となっている。生徒間でそれぞれの特性を受け入れ、協力して活動を行える雰囲気が各学年で定着している。安心できる環境の中、特別支援学級に在籍する生徒も積極的に交流学級での授業に臨んでいる。 ◆個々の生徒の特性を理解し、適切な配慮ができるよう教職員間の共通理解に努めていく。	教職員	11	94%	4	11	1	0										
		地域住民	7	96%	7	20	1	0	15											
	生徒	11	98%	77	37	2	0													
	年度末	A	◇中間期同様、いずれも目標値を超えているためA評価である。今学期も各授業や様々な行事で、お互いを認め合いながら協力して活動に取り組むことができた。安心できる環境の中、特別支援学級の生徒や配慮が必要な生徒も積極的に各活動に取り組み、少しずつ成功体験を積み重ねることで、自信をつけていくことができた。 ◆生徒の状況を複数の目的的確に把握し、その特性に応じた対応を考え、支援していくことを今後も継続していく。	教職員	11	94%	10	5	1	0										
地域住民	7	97%	10	25	1	0	15													
生徒	11	99%	73	38	1	0														
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育や特別支援教育に関する保護者の欄があるほうがよい。 ・結果から、先生と生徒との関係が良好であることがうかがえる。 ・自由記述は、100人いれば100人とも同じ意見ではない。いろいろな意見がある。 ・保護者からの意見は、真摯に受け止めるかそうでないかだが、本校は優しく受け止めている感じを受ける。 			学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・項目の削減にもなって調整不足であった。項目と評価者が一致するよう、来年度をめぐりに改善する。 ・特色ある道徳教育推進事業推進校発表会を目標に、授業力の向上を図ることにより、生徒の道徳性をさらに養う。 ・今後も生徒理解に努め、現在の良好な関係を維持する。 															
学校運営協議会委員の所見(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の健全育成」について、保護者のA評価の人数が大幅に増加していてよい傾向である。学校と保護者の意識のベクトルが合ってきているのではないかと。 ・不登校対応について、特別支援教育の観点から子どもの状況に沿った対応を今後もお願いしたい。 ・学校の様子を家庭で話しているようで、よいと思う。 			学校の対応(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士や生徒と教職員の人間関係は良好である。今後も継続できるように、日頃からの声掛けを大切に、悩みやトラブルなどの早期発見・早期対応に努める。 ・不登校生徒は減少傾向である。今後、更に登校できる生徒が増えるように、個別に対応していく。また、必要ときに必要な支援ができるよう、教職員間や家庭との連携を図り、生徒の困りごとの把握に努める。 															

令和4年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		到達率 [肯定評価(A,B)の割合]						
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員16 生徒120 保護者108 地域住民51		アンケート結果(人数)						
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>		評価資料						
							A	B	C	D	?	
特色ある学校づくりの推進	愛さつ城辺の推進 あいさつがよくできる生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇毎週の「愛さつ運動」に、生徒会が中心となって学級や部活動ごとで評価するなど、工夫をしながら意欲的に取り組んでいる。生徒の中に「語先後礼」が浸透しており、「愛さつ運動」では多くの生徒が実践できている。 ◆教職員と保護者の結果が、肯定的とはいえ対称的になっている。また、地域住民の方の回答にCが多い。学校でできていることが、家庭や地域で実践できる力の育成が求められる。「させられるあいさつ」から、「心のこもったあいさつ」ができるように今後も生徒会を中心に呼び掛けていきたい。	教職員	12	100%	10	6	0	0	
			保護者	7	93%	13	37	4	0			
			地域住民	8	88%	18	18	5	0	2		
		生徒	12	96%	64	47	5	0				
		年度末	A	◇中間期同様、生徒・保護者・地域住民・教職員のいずれも目標値を超えているためA評価とした。2学期は行事など、生徒の様子を保護者の方々に見ていただける機会が多かったことも影響していると考えられる。生徒会役員を中心として上級生が手本を示すことで、1、2年生のあいさつの声や意識が向上している。 ◆Cと評価した生徒が数名いる。より高いレベルを意識した評価なのかどうか、詳しくは分からない。今後も、学校内外で「気持ちのよいあいさつ」ができる生徒の育成のために、生徒会を中心に活動していきたい。	教職員	12	100%	8	8	0	0	
			保護者	7	97%	32	73	2	1			
	地域住民		8	95%	31	24	3	0	3			
	生徒	12	96%	59	56	5	0					
	行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒の変容・向上を図る活動が行われている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒、保護者、地域住民、教職員の肯定的な回答が80%以上であるため、評価をAとした。今年度も新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考え、精選された行事のみの開催であったが、修学旅行をはじめ、当初の予定通りに行事が実施できたため高評価につながったと考える。また、生徒は精選された行事だからこそ集中して取り組み、充実感を味わうことができていると思われる。 ◆今後の状況によっては、まだまだ制限の中での開催になる可能性が高い。しかし、どのような形になっても生徒が主体的に考え、活動できるよう教職員がサポートをしていかなければならない。	教職員	13	94%	4	11	1	0
				保護者	8	83%	8	37	9	0		
				地域住民	9	97%	16	21	1	0	5	
		年度末	A	◇生徒、保護者、地域住民、教職員のいずれも目標値を超えているためA評価とした。今年度後半も新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考え、精選や短縮された行事の開催であったが、運動会をはじめ、文化祭等生徒が主体的に取り組んだ行事を実施できたことが高評価につながったと考える。また、保護者が生徒の主体的な活動を参観することができたことも高評価につながったと考えられる。 ◆感染状況は落ち着いてきているものの、今後の状況によっては、まだまだ制限の中での開催になる可能性が高い。しかし、どのような形になっても生徒が主体的に考え、楽しく活動できるよう教職員がサポートをしていかなければならない。	教職員	13	94%	7	8	1	0	
保護者			8	94%	23	78	5	2				
地域住民			9	96%	20	25	2	0	4			
生徒	13	98%	82	36	2	0						
家庭・地域との連携	情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒・保護者・地域住民・教職員のいずれも目標値を超えているためA評価とした。制限はあったが、参観日や懇談会を開催することができたこと、ホームページや各種通信で学校の様子を知らせることができたからであると思われる。特に修学旅行中には、ホームページ閲覧数が1300を越えるなど、学校行事への関心の高さがうかがえた。 ◆保護者の中には否定的意見があることから、確実に届けるよう生徒に粘り強く働き掛ける必要がある。また、学年通信の発行を定期的に行い、保護者にとって、より身近な情報を提供することも必要だと思われる。	教職員	14	100%	9	7	0	0	
			保護者	9	93%	7	43	4	0			
			地域住民	10	100%	19	24	0	0			
	生徒	14	94%	62	47	6	1					
	年度末	A	◇中間期同様、いずれも目標値を達成できたためA評価である。様々な学校行事を開催することができ、その後、関心を持ってホームページや各種通信を見ていただいたからだと思う。一方で、学年通信は学年により、発行数に差が見られたことが否定的評価につながったのではないかとと思われる。 ◆確実に保護者の手に届くための手立てとして、封筒に入れることを試みたところ、ほぼ達成することができた。毎回は無理かもしれないが、機会を見ながら今後も試みる価値があると思われる。	教職員	14	100%	10	6	0	0		
		保護者	9	93%	21	79	7	1				
地域住民		10	100%	26	25	0	0					
生徒	14	96%	72	43	3	2						
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は、1人のときにはあまりできていないが、2、3人いるときにはできている。 ・宿泊研修や修学旅行など、思い出に残る行事が実施できてよかった。 ・中高一貫校への進学をどうにかできないものか。高校と連携して、SSHのような将来の大学入試につながるような取組ができるとよい。 ・ふるさと講演会の講師は、ある程度決定している。 			学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の意義について、態度・姿勢への指導だけでなく、道徳教育等を通じて心情を育てていく。 ・2学期は大きな行事があるため、生徒の主体的な活動を尊重し、一人一人の成長を促す指導やアドバイス、支援に努める。 ・生徒一人一人の能力を生かし、多様な進路を保障するために、日頃の学習活動の充実を図る。そのうえで、校内外において多様な人々と触れ合うことができる機会を設ける。 							
学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、地域で挨拶してくれている。1人対1人のときはできないことが多いが、これについては仕方ないと思う。 ・挨拶はしてくるが、顔を見て挨拶したり視線を合わせて挨拶したりできない。声を掛けると顔を覚えてくれるのか、次からは返してくれる。 ・ホームページや通信で、学校の様子をこれからも発信してほしい。 			学校の対応(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのあいさつ運動が、小学生や地域にも少しずつ広がりを見せている。地域でも、よりよい挨拶ができるように、生徒会を中心に校内の挨拶から見直していく。 ・行事・諸活動の充実に向けて、日頃から何事にも真摯に取り組む生徒、主体的に取り組む生徒の育成を図る必要がある。 ・ホームページや通信は、分かりやすい内容を目指し改善していく。 							

令和4年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない		【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)		回答数 教職員16 生徒120 保護者108 地域住民51		評価資料		到達率 [肯定評価(A,B)の割合]		アンケート結果(人数)				
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>						A	B	C	D	?
健康	基本的な感染予防対策や保健指導等を通して、健康的な生活をしようと する生徒を育てている。	中間期	A	◇8割以上の回答が肯定的であるため評価をAとした。旅行・集団宿泊の行事の事前指導の際には、感染対策について確認しながら指導を行ったことにより、現地での感染予防に対する意識を高めることができたと思う。 ◇給食についての掲示や放送を通して正しい食生活についての意識付けを行っている。 ◆新型コロナ感染症の長期化により、日常生活での感染対策についての意識の低下が見られる。生徒の基本的な生活習慣の習慣化により免疫力を上げることで感染症予防に繋がるため、今後も継続した指導が必要である。	教職員	15	94%	7	8	1	0			
			保護者	10	98%	16	37	1	0					
	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇生徒・保護者・地域住民・教職員のいずれも目標値を超えているためA評価とした。その時々での感染状況に応じた感染対策を呼び掛け、意識を高めることができたからであると思う。 ◇給食集会では、給食レシピの料理動画や食育だよりを配付するなど、食に関する意識を高めることができたと思う。 ◆新型コロナウイルス感染症の長期化により、日常生活での感染対策についての意識の低下が見られる。動画を用いた保健集会を行ったところ生徒の意識の向上が見られた。今後も継続した指導が必要である。	教職員	15	100%	10	6	0	0			
			保護者	10	98%	24	82	1	1					
地域住民	11	98%	18	24	1	0	8							
	生徒	15	85%	51	51	16	2							
安全	防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇いずれも80%以上の肯定意見であるため、評価はAである。1年生を中心に行った集団宿泊研修での防災力向上スタンプラリーや起震車体験、全校では、避難訓練を実施した成果と思われる。その一方で、肯定ではあるもののAを選択した割合が低い。 ◆総合的な学習の時間を中心に学びの充実を図り、安全・防災に対する意識を高める必要がある。また、保護者・地域と連携した避難訓練が実施できるよう、計画・立案していきたい。	教職員	16	100%	4	12	0	0			
			保護者	11	96%	11	41	2	0					
	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇いずれも目標値を超えているため、中間期と同様にA評価である。2学期は2年生を中心に防災学習を行った成果であると考えられる。また、日常的に指導している交通安全の指導等により、安全面への意識の醸成につながったと考える。 ◆意識は育成できていると思われる一方で、総合的な学習の時間における各学年の系統的な学びが不十分である。自助・共助の考え方をもとに全体計画を見直し、発達段階に応じた系統的かつ実践的な学びの充実を図り、時期と内容を再検討する必要がある。	教職員	16	94%	6	9	0	1			
			保護者	11	94%	21	80	6	1					
地域住民	12	95%	14	23	2	0	12							
	生徒	16	95%	47	67	5	1							
推進	部活動に先進で参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇コロナ禍の為、今年度も制限のある中での部活動だった。総体は開催されたが、チーム作りに必要な対外試合を行うことができない現状はある。目標を持った活動が、部活動の充実につながると思う。部活動を通して、規律ある学校生活の基盤を育てていけるよう支援していきたいと思う。 ◆保護者・生徒において否定的回答が見られた。これは、集団づくりの部分に課題があり、保護者の評価は生徒の評価と連動していると考えられる。今後も生徒数減少となる中で、さらに部活動の編成についても考えていかなくてはならない。今後も部活動ガイドラインに沿った取組を続け、充実した活動となるように配慮していきたい。	教職員	17	100%	10	6	0	0			
			保護者	12	89%	14	34	6	0					
	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇生徒・保護者・地域住民・教職員のいずれも目標値を超えているためA評価とした。コロナ禍ではあるが大会等が増え、生徒は目標を持ちやすくなっているように思う。それを日々の練習の意欲化により一層つなげていかなくてはならない。新チームになって日も過ぎ、それぞれの部活動での集団づくりも進んできている。 ◆保護者、生徒もほとんどが肯定的ではあるが、中には低評価も見られる。学校全体で、技術や勝敗にこだわるだけにならないよう、規律や集団づくりについて意識的に声を掛けていく必要がある。また、教職員の取組が伝わるよう、粘り強く継続していき、コミュニケーションを図りながら、各部の運営を行っていかなくてはならない。	教職員	17	100%	11	5	0	0			
			保護者	12	90%	29	68	8	3					
地域住民	13	100%	20	22	0	0	9							
	生徒	17	93%	75	36	7	2							
学校運営協議会委員の所見(中間期)	・自転車通学生は、横断歩道をきちんと押し渡っている。 ・昨年、起震車体験をさせてもらい、とてもよかったが、同じ内容では、また同じ人が来てしまう恐れがある。中学校には迷惑をかけることになるが、できれば違う内容の防災訓練をお願いしたい。コロナバージョンで、できることをやればよいのではないかと。 ・数名、自主的にランニングしている姿を見掛ける。とてもよい。	学校の対応(中間期)	・避難訓練や交通安全指導を通して、自分や他の人の命を大切に教育を推進する。 ・防災教育の推進については、地域との協力・連携を踏まえながら、訓練を実施していく。今年度は、古い消火器を活用した消火訓練を予定している。地域にも呼び掛ける予定である。 ・学校では見ることでできない姿を、地域の方に見ていただいていることを生徒に伝え、部活動への励みにさせたい。											
学校運営協議会委員の所見	・町内でもコロナの感染が拡大しているが、学校においては今後も十分な感染予防を指導してほしい。 ・文化部が吹奏楽部だけで、運動の苦手な子どもの入部先がほかにもあるとよい。その一方で、初心者でも運動部で頑張っている子どももいて、よい傾向だと感じる。 ・合同チームでの練習について、生徒の様子など情報があれば教えてほしい。	学校の対応(年度末)	・感染予防について、今後変更されそうである。感染状況や予防対策の情報を踏まえながら、臨機応変に対応していく。 ・避難訓練が十分できなかった。来年度、計画的な実施を図る。 ・合同チームでは、レギュラーになれない選手も大切に教育の方針である。部活動は、来年度からの地域部活動への移行や、今後の学校統廃合などを見据えながら対応していく。											